

保健、医療、福祉と介護の制度 (Public Health / Health Care and Welfare System)

【責任者/担当者】

〔公衆衛生学〕 島 正之 主任教授

【担当者】

〔公衆衛生学〕 大谷 成人 講師、味木 和喜子 特別招聘教授、
遠藤 弘良 特別招聘教授、藤田 大輔 非常勤講師、
関本 雅子 非常勤講師、田中 茂美 非常勤講師、
増田 國次 非常勤講師、丸山 浩 客員教授

【目的】

- ・少子高齢化社会における社会環境および疾病構造の変化を理解し、保健・医療・福祉・介護に求められている課題を認識する。
- ・健康から健康障害(疾病)、さらには回復後までの疾病の自然史を理解し、健康事象を公衆衛生学的にとらえて問題解決を図る理論と技術を身につける。
- ・人の健康に影響を与える環境要因について認識し、健康を保持増進するためには個人的および組織的な予防医学的活動が必要であることを理解する。
- ・保健・医療・福祉・介護活動が多くの関係者のチームワークによって可能となっていることを理解し、そのリーダーシップをとって包括的医療を行うことができる能力を身につける。
- ・日本および国際的な保健医療サービスの組織や機構について理解する。

【科目キーワード】

「予防医学(Preventive medicine)」「健康増進(Health promotion)」「保健医療制度(Health care system)」「社会保障(Social security)」「産業保健(Occupational health)」「環境保健(Environmental health)」

【到達目標(アウトカム)】

社会・環境と健康

- 健康、障害と疾病の概念を説明できる。
- 社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係を説明できる。
- 環境と健康・疾病との関係を説明できる。
- 生態系の変化が健康と生活に与える影響について説明できる。
- 各ライフステージにおける主な健康問題を説明できる。

地域医療

- 地域医療の機能と体制、地域保健医療計画について説明できる。

- へき地医療の現状と課題について説明できる。
- 地域における保健・医療・福祉・介護の連携の必要性について説明できる。
- 在宅医療について説明できる。

疫学と予防医学

- 人口静態統計と人口動態統計の特徴とその動向を説明できる。
- 予防医学(一次、二次、三次予防)について説明できる。
- 健康管理、健康診断の意義とその事後指導について説明できる。
- 主な感染症の疫学と予防法について説明できる。

保健・医療・福祉・介護の制度

- 保健・医療・福祉・介護の制度とそれらの施設、従事者について説明できる。
- 医療保険、介護保険、公費医療について説明できる。
- 高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- 学校保健、産業保健(労働関係法規を含む)と医師の役割を説明できる。
- 医療の質の評価(質の定義、クリティカル・パス)を説明できる。
- 国民医療費の収支と将来予測について説明できる。
- 医師法、医療法、その他の医療関連法規を概説できる。
- 医療関連法規に定められた医師の義務を列挙できる。
- 感染症法、食品衛生法の概要と医師の届け出義務を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。
- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。

- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

本学教員の他に、客員教授、特別招聘教授、非常勤講師がそれぞれの専門分野についての講義を行う。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

事前に教科書及び資料を読み、疑問点を整理しておくこと(1時間程度)。

講義では実際のデータなどを取り上げて演習を行うので、各自の理解度を把握し、ノートなどにまとめること(0.5~1時間程度)。

【成績の評価方法・基準】

筆記試験 80%、レポート 10%、授業中の態度 10%

【学生への助言】

医師として保健医療活動に従事する上で、社会と関わりは極めて重要である。本科目では、医師として身につけておかなければならない事項を中心に講義を行う。特に、客員教授、非常勤講師はいずれも各分野における専門家であり、講義を聴くことのできる機会は貴重であるので、欠席しないこと。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(特に低正答率問題)。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

原則として、各担当者が作成した講義資料を配付するが、成書を用いて学修することが望ましい。

「NEW 予防医学・公衆衛生学(改訂第4版)」岸玲子 監修(南江堂)2018年

「保健統計・疫学(改訂6版)」福富和夫、橋本修二 著(南山堂)2018年

【参考書】

「国民衛生の動向(2021/2022)」(月刊誌「厚生指標」2021年8月増刊)

厚生労働統計協会 編(厚生労働統計協会)2020年

「厚生労働白書(令和3年版)」厚生労働省 編(日経印刷)2021年

「環境白書/循環型社会白書/生物多様性白書(令和3年版)」環境省 編(日経印刷)2021年

厚生労働省、環境省、WHO等のホームページからの情報も有用である。

主な保健統計資料については厚生労働省ホームページで閲覧、ダウンロードすることが可能である。(https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/)

【連絡先】

教育研究棟 11階 公衆衛生学セミナー室